

教育・文化について

代表質問



政友自民クラブ
引地 達雄 議員

産業・経済について

質問…待機児童ゼロ歳から1歳児の解消について伺います。

答弁…本市では、平成30年4月1日現在及び10月1日現在の待機児童数は、両方ともゼロ人を達成しております。しかし、子供の数が減少しているにもかかわらず核家族化の進行、女性の社会進出などにより保育園への入所希望、特にゼロ歳児から1歳児への保育需要は依然として

高い状況にあります。このため、特定の保育園を希望しているあるいは保護者が育児休業中であるなどの理由で待機児童には含まれない潜在的な待機児童につきましては、4月が60人、10月

が86人という状況であります。市といたしましては、待機児童を出さないための対策といたしまして、子ども・子育て支援事業計画に基づく保育施設整備を

行っており、現在は平成31年4月開設予定のひかり保育園、平成32年4月から認定こども園へ移行する予定のふたば幼稚園につきまして、確実な開園を目指し、施設整備を進めているところであります。今後も各園の受け入れ枠を増やし、一人でも多くの児童入所につなげていくことができるよう努めてまいりたいと考えております。

質問…農家民泊について、廃校・旧庁舎（片田小・須佐木小・佐久山中・湯津上庁舎）を改修して進めてはどうか伺います。農家民泊向けの施設整備に向けて農水省は、19年度予算案に52億5800万円を計上、市町村が所有する古民家や廃校、旧庁舎等大規模な遊休施設を改修する場合、最大1億円を交付することになりました。この事業を進

めてはどうか伺います。

答弁…農学事業についても顧客獲得競争があり、特殊性や希少性といった魅力を持った新しいビジネスモデルの考案が必要不可欠であります。農林水産省では、農学を持続的なビジネスとして実施できる地域の創造を推進しており、古民家や廃校等を滞在施設や体験施設に改修する際の支援等が拡充され、事業費

の2分の1を対象に上限1億円まで交付を受けることができるといった制度も引地議員ご指摘のとおりです。そういった観点からもご提案を頂きました廃校、旧庁舎の活用については、グリーン・ツーリズム事業の発展のために検証すべきツールの一つだと考えられますので、ニーズやコスト等、実効性を検証してまいります。

の2分の1を対象に上限1億円まで交付を受けることができるといった制度も引地議員ご指摘のとおりです。そういった観点からもご提案を頂きました廃校、旧庁舎の活用については、グリーン・ツーリズム事業の発展のために検証すべきツールの一つだと考えられますので、ニーズやコスト等、実効性を検証してまいります。